

はじめに

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度末から、児童生徒の体育的活動は制限を余儀なくされました。さらに本県では、令和2年7月豪雨にも見舞われ、学校の体育施設が使用できない状況に陥った学校もありました。そのような厳しい状況の中で、令和3年度、全国体力・運動能力、運動習慣等調査が2年ぶりに実施されました。その調査において、本県の体力合計点が小5、中2の男女とも全国平均を上回る結果となったのは、体力を高めるために、「何ができるか」「どのように取り組んだらよいか」を熟考され、体力向上に取り組んでこられた成果であり、各学校の先生方に心から感謝を申し上げたいと思います。

しかしながら一方では、ほとんどの種目において体力の低下傾向がみられ、質問紙調査では「運動が好き」「体育の授業は楽しい」と回答した児童生徒の割合が全国平均より低い結果となっています。

このような現状を踏まえ、本県では「子供の体力向上推進委員会」がこれまで提言してきた「体育・保健体育の授業の工夫改善」及び「運動の日常化・習慣化」を引き続き目標として掲げ、体力テストの結果分析や小学校、中学校における公開授業の実施など様々な取組を行ってきました。

本書は、その提言における考え方や公開授業、指導力向上のための各種研修会、幼児期の運動習慣の確立に向けた取組、体力向上優良校の実践等についての取組事例を紹介し、各学校における体育・保健体育の授業や学校総体で行う児童生徒の体力向上に向けた取組の参考となるよう構成しています。

各学校におかれましては、本書記載の各実践事例の内容や体力・運動能力の調査結果等を体力向上の取組の更なる充実と授業改善等に生かしていただきますようお願いいたします。

最後になりましたが、本事業の推進にあたり、御協力いただきました関係者の皆様をはじめ、御尽力くださいました体力向上推進委員の皆様心から感謝申し上げます。

令和4年（2022年）3月

熊本県教育庁県立学校教育局体育保健課長 平江 公一